

日本気象学会北海道支部平成 27 年度気象講座(サイエンスカフェ)

「大雨から身を守る! - 札幌市 9.11 豪雨から 1 年 - 」の報告

札幌管区気象台気象防災部防災調査課 清野祐子

日本気象学会北海道支部が共催したサイエンスカフェが 2015 年 9 月 6 日(日)に札幌駅近くの紀伊國屋書店インナーガーデンにおいて、「大雨から身を守る! - 札幌市 9.11 豪雨から 1 年 - 」というテーマで実施しました。

2014 年は日本各地で大雨により、土砂災害、浸水害、河川の氾濫などが発生し、甚大な被害を伴いました。8 月には、広島市で多くの方が土砂災害で犠牲となり、道内においても礼文町で 2 名の方が土砂災害により亡くなりました。さらに 9 月には道内各地で断続的に大雨となり、札幌市内や支笏湖周辺において土砂災害や浸水害が発生しました。このとき、札幌管区気象台では北海道で初めてとなる大雨特別警報を発表し、最大級の警戒を呼びかけました。また札幌市は、33 年ぶりとなる避難勧告を発令しました。

この事例から 1 年が経過し、大雨防災への意識が高まる時期にサイエンスカフェを開催しました。前半は、札幌管区気象台予報課の山下龍平主任予報官が豪雨発生メカニズムや大雨による被害を軽減するために発表している防災気象情報に関する話を伝えました。後半は札幌市で災害対応の最前線を統括する村井広樹危機管理対策課長が、避難所運営や緊急速報メールを利用した避難情報の伝え方など、札幌市が取り組む防災対応に関する話を伝えました。そして、これらの話を気象キャスターの菅井貴子さんがファシリテーターとして、来場者がより身近に感じることができるような内容を織り交ぜながら、やさしく丁寧に伝えました。

来場者からの質問も多岐にわたり、マイクを持って積極的に直接質問する方も複数名いました。アンケート結果を見ても来場者の満足度は高かったようです。

気象現象の監視と予測を行う気象台の話と、住民の安全を守るために防災対応を行う札幌市の話の両方伝えることにより、来場者の防災への理解がさらに深まり効果的なイベントでした。協力いただいた関係機関に感謝申し上げます。

